

## 新日本製鐵株式会社名古屋製鐵所、第1高炉に火入れ

新日本製鐵株式会社 名古屋製鐵所(所長:勝山 憲夫)では、2月1日に第1高炉の「吹き止め」を行い改修工事を実施してきたが、4月25日に「火入れ」を行い、稼働を再開致します。

第1高炉は平成4年5月に第4次操業を開始して以来、14年9ヵ月にわたって高レベルの生産を継続してきました。

今回の改修工事では、炉体の解体と設営を大分割で行う「大ブロック工法」を採用し、改修工期を前回の115日から83日に大幅に短縮しました。

新「第1高炉」は、内容積が4,650m<sup>3</sup>から5,443m<sup>3</sup>に拡大し、国内4位の大型高炉となります。高炉の操業状況を3次元的に把握し、超大型高炉の安定操業に資する管理システム『3D-VENUS』を世界で初めて導入しております。また、耐食性に優れた炉底レンガの採用、炉体冷却性能に優れた銅ステーブの採用など先端技術を駆使することで、省エネルギー化や炉の長寿命化を図っております。

### [参考]

#### \* 第1高炉の設備履歴

S39年	稼働開始
S45年	第2次改修 火入れ
S54年	第3次改修(リプレース) 火入れ
H4年	第4次改修 火入れ
H19年	今回(第5次)改修、火入れ

#### \* 主要諸元

	<改修前>	<改修後>
内容積	4,650m <sup>3</sup>	5,443m <sup>3</sup>
出銑口	4本	4本
羽口	38本	42本
炉体冷却方法	鑄鉄ステーブ	銅ステーブ+鑄鉄ステーブ

#### \* 「3D-VENUS」の概要

(VENUS ; Visual Evaluation and Numerical analysis System of Blast Furnace operation)

高炉の炉体回りに設置した各種センサー等による測定情報とその解析情報を3次元の、かつ変化を秒単位で表示するシステム。従来の2次元システムよりもデータの精度が高まり、迅速かつ的確な操業アクションにつながる。

以上

(お問い合わせ先)

新日本製鐵株式会社 名古屋製鐵所  
総務グループ 十河(TEL 052-603-7023)  
南(TEL 052-603-7024)